

科目名	コンピューターシステムⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	奥野 広成、毛利 俊司		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	<p>情報化に主体的に対応するための基礎的な知識やクライアント環境のパソコンの操作、機能、および情報モラル、セキュリティなどに関わる基礎知識について学習する。</p> <p>基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。</p> <p>iCDタスクコード 該当なし</p>						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ハードウェア・ソフトウェア分野の用語について説明できる	
	○	○				ネットワーク・セキュリティ分野の用語について説明できる	
	○	○				アプリケーションソフトの種類と目的について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	<p>情報処理試験合格へのパスポート コンピュータ概論(ウイネット)</p> <p>情報処理試験合格へのパスポート システム開発技術(ウイネット)</p>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	情報表現と処理手順					
	2	ハードウェア/ソフトウェア					
	3	ネットワーク/インターネット					
	4	アプリケーションソフトとユーザーインターフェース					
	5	授業内評価テスト1、情報化社会			テストの予習をすること(1時間)、テストで正解できなかった箇所をまとめること(1時間)□		
	6	セキュリティ					
	7	情報モラル					
	8	授業内評価テスト2、総合問題演習			テストの予習をすること(1時間)、テストで正解できなかった箇所をまとめること(1時間)		
	9	総合問題演習					
評価方法	(1)授業内評価テストを2回実施する (2)授業中に出題した課題の提出を求める (3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎					40%
	課題・レポート	◎			○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	コンピューターシステム応用Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	志水 徹、小井手 武治		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、セキュリティに関する知識を学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
	iCDタスクコード : DV05.7.3						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					セキュリティ分野の用語について説明できる	
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる	
テキスト・教材 参考図書	情報処理試験合格へのパスポート システム開発技術(ウイネット) 基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集(ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	セキュリティ用語まとめ					
	2	問題演習 情報セキュリティの目的					
	3	問題演習 情報セキュリティ管理・評価					
	4	問題演習 情報セキュリティ対策、授業内評価テスト1				授業内容に係る授業内評価テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	5	問題演習 情報セキュリティ対策					
	6	問題演習 情報セキュリティ実装技術					
	7	授業内評価テスト2 総合演習問題				授業内容に係る授業内評価テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	8	総合演習問題 基礎				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	9	総合演習問題 応用				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
評価方法	(1)授業内評価テストを2回実施する (2)授業中に出題した課題の提出を求める (3)受講状況の評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				40%
	課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピューターシステムⅢB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	志水 徹、今村 美穂、江利 かおり		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	<p>文部科学省後援 情報活用試験2級の出題範囲に準拠し、情報化社会で企業活動を理解するための基礎知識の中で、アルゴリズム分野及び表計算分野に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。プログラムトレース力も身につける。</p> <p>iCDタスクコード DV05.7.3</p>						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				表計算分野で出題される関数の仕様を理解し、活用することができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、プログラムを作成することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	表計算ソフトの基礎(相対参照、絶対参照等)					
	2	情報処理試験における関数					
	3	表計算(過去問演習)				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	4	第1回授業内評価テスト				テスト範囲を復習をすること(1時間)、テストで正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
	5	アルゴリズム(探索のアルゴリズム)					
	6	アルゴリズム(整列のアルゴリズム)					
	7	アルゴリズム(擬似言語過去問題演習)				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	8	アルゴリズム(擬似言語過去問題演習)				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	9	第2回授業内評価テスト				テスト範囲をの復習をすること(1時間)、テストで正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
評価方法	(1)授業内評価テストを2回実施する (2)授業中に出題した課題の提出を求める (3)受講状況の評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				40%
	課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピューターシステム応用Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	志水 徹、今村 美穂、江利 かおり		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。普遍的・本質的なプログラミング的思考力を身につけ、擬似言語のトレースができるようになる。 iCDタスクコード : DV05.7.3						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することができる	
	○	○				擬似言語の表記方法を理解し、トレースすることができる	
テキスト・教材 参考図書	アルゴリズムとデータ構造(ウイネット) 基本情報技術者 科目A&科目B 対策問題集(ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	アルゴリズム(擬似言語の仕様、条件分岐)					
	2	アルゴリズム(繰返し、配列)					
	3	アルゴリズム(関数宣言と呼出し、引数、戻り値)					
	4	第1回授業内評価テスト				授業内容に係る授業内評価テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	5	アルゴリズム(探索のアルゴリズム)					
	6	アルゴリズム(整列のアルゴリズム)					
	7	アルゴリズム(擬似言語過去問題演習)				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	8	アルゴリズム(擬似言語過去問題演習)				実施した過去問題の復習をすること(1時間)	
	9	第2回授業内評価テスト				テスト前の復習をすること(1時間)、テストで正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
評価方法	(1)授業内評価テストを2回実施する (2)授業中に出題した課題の提出を求める (3)受講状況を評価する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				40%
	課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験対策 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	志水徹・今村美穂・江利かおり・小井手武治・毛利俊司・奥野広成・川原弓佳		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					
	7	授業内評価テスト・解説、復習				評価テストの範囲の復習をしておくこと。	
	8-14	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					
	15	授業内評価テスト・解説、復習				評価テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16-22	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。					
	23	授業内評価テスト・解説、復習				評価テストの範囲の復習をしておくこと。	
	24	総合演習					
評価方法	(1)授業内評価テスト(数回)を実施する (2)授業で指定した課題、レポートを評価する (3)受講状況を評価する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	○	◎				50%
	課題・レポート				◎		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	奥野 広成、前園 勝稔、打越 直美			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科1年、情報システム専攻科1年、情報工学科1年							
授業概要	ITインフラストラクチャーを構成するTCP/IPの仕組みとネットワークデバイスの役割を理解して、構成要素を説明できるようになる							
	iCDタスクコード : DV04.9.1							
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる携帯:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				TCP/IPの仕組みを説明できる		
	○	○				ネットワークデバイスの役割が説明できる		
	○	○				アプリケーションとクライアントの役割が説明できる		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	前期復習						
	2	前期復習						
	3	ITインフラストラクチャーとインフラエンジニア						
	4	TCP/IPモデルとOSI参照モデル						
	5	ネットワークデバイスの役割□						
	6	IPアドレスの概要						
	7	記数法の復習				確認テストを実施するのでここまでの内容をまとめておくこと		
	8	サブネット化						
	9	サブネット化						
	10	サブネット化				確認テストを実施するのでここまでの内容をまとめておくこと		
	11	イーサネットの仕組みとスイッチの仕組み						
	12	トランスポート層の役割						
	13	アプリケーションプロトコル HTTP、メール、DNS						
	14	アプリケーションプロトコル DHCP、FTP□				確認テストを実施するのでここまでの内容をまとめておくこと		
15	総復習							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で確認テストを3回実施する (3)実習内容を課題レポートとして提出させる (4)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	○	◎				40%	
	確認テスト		◎				20%	
	課題		◎				20%	
受講状況				◎		20%		
履修上の注意								

科目名	AI基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小井手 武治、今村 美穂		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	身の回りに存在する人工知能(AI)の基礎を学び、今後の社会がどのように変わるのかを学習する。 簡単なAIプログラミングを体験し、AIサービスの実現方法を知る。 実機(レゴマインドストームEV3)を動かすプログラムを作成することで、自律型ロボットのプログラミング動作を経験する。 iCDタスクコード AI01.1.3						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人工知能の概要および活用場面について説明できる	
	○	○				機械学習を用いたAIサービスの実現方法を説明できる	
		○		○		自律型ロボットの動作プログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『はじめてのAI』創元社</li> <li>『ロボットと情報技術 実習-教育版EV3ソフトウェア』株式会社アフレル</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人工知能とは何か／そもそも知能とは何か					
	2	人工知能と産業革命／人工知能の歴史					
	3	人工知能の温故知新／人工知能は感情を持てるのか／AIが得意なこと、苦手なこと					
	4	人工知能が抱える問題点／AI社会の中で／AIは人間を超えるのか					
	5	スゴイ人工知能／人工知能のこれからの課題／人工知能とのつきあい方					
	6	自律型ロボットプログラム開発①【導入】					
	7	自律型ロボットプログラム開発②【EV3によるプログラミング】					
	8	自律型ロボットプログラム開発③【繰り返し処理】					
	9	自律型ロボットプログラム開発④【分岐処理】					
	10	自律型ロボットプログラム開発⑤【各種センサーの理解】				プログラム開発の方法を復習する(1時間)	
	11	自律型ロボットプログラム開発⑥【応用課題1】					
	12	自律型ロボットプログラム開発⑦【応用課題2】					
	13	AIプログラミング実装演習①					
	14	AIプログラミング実装演習②				AIの用語を復習する(1時間)	
15	総復習(AIの用語まとめ)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)プログラム開発課題を課す (3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				30%
	課題・レポート		◎		◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	プログラミング演習 I B							
科目名(英)								
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	志水 徹、今村 美穂、江利 かおり			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、メソッド、カプセル化、継承、ポリモーフィズムを中心に学習を進める。例外処理による異常系の動作を考慮したプログラム記述方法を習得する。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。 iCDタスクコード： DV05.7.3, DV07.6.1～DV07.6.4, DV07.7.1～DV07.7.3							
授業形態	講義：	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				クラス、メソッド、継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる		
	○	○				例外処理を含むJavaプログラムを作成できる		
テキスト・教材 参考図書	Java入門編第3版 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社) Java実践編第3版 アプリケーション作りの基本(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-3	前期復習 条件分岐、繰り返し						
	4-6	前期復習 メソッド						
	7-9	第5章 クラスの基本1						
	10-12	第5章 クラスの基本2 確認テスト 第6章クラスの一步進んだ使い方1				確認テストの準備をしておくこと		
	13-15	第6章クラスの一步進んだ使い方2				確認テストの準備をしておくこと		
	16-18	復習、確認テスト 第7章継承1						
	19-21	第7章継承1						
	22-24	第7章継承2 確認テスト				確認テストの準備をしておくこと		
	25-27	第8章抽象クラスとインターフェース1						
	28-30	第8章抽象クラスとインターフェース2				確認テストの準備をしておくこと		
	31-33	復習、確認テスト (実践編)第1章パッケージとJavaAPI						
	34-36	(実践編)第1章パッケージとJavaAPI (実践編)第2章例外				確認テストの準備をしておくこと		
	37-39	復習、検定対策(基礎文法) 確認テスト						
	40-45	検定対策(基礎文法、トレース)				課題を終わらせておくこと		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)確認テストを数回実施する (3)課題・レポートを数回実施する (4)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験(筆記)	◎	◎				40%
		確認テスト	◎	◎				20%
課題・レポート			◎		○		20%	
受講状況					○		20%	
履修上の注意								

科目名	データベース演習							
科目名(英)								
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	小井手 武治			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	表検索、表結合、表作成などの基本的なSQL操作をステップアップ形式で学習する。実行環境を作成し、毎回、SQL操作結果を確認しながら、目的に応じた表操作ができることを目指す。 iCDタスクコード : DV05.2.3, DV05.2.4, DV08.2.2, DV08.2.3							
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				記述されたSQL文を理解できる		
	○	◎				要求されるデータ操作や表定義のSQL文を記述できる		
テキスト・教材 参考図書	SQL ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	データベースの構成と特徴、実行環境の作成						
	3 4	検索の基本						
	5 6	算術演算子、比較演算子、論理演算子						
	7 8	集約、確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9 10	グループ化とグループ行への条件指定						
	11 12	整列、復習						
	13 14	登録、削除、更新、トランザクション、ACID特性						
	15 16	確認テスト、ビュー、サブクエリ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	17 18	関数、述語、CASE式						
	19 20	結合						
	21 22	テーブルの作成、削除、変更						
	23 24	総復習、確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト3回実施する。 (3)授業内に課題演習を指示し、課題の完成度や提出状況を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験(筆記)	○	◎				30%
		確認テスト	○	◎				20%
		課題演習			◎	◎		40%
		受講状況				◎		10%
	履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。毎回多くの練習問題を解くことで、様々な問題に対応できる力をつける。また、前期に実施した国語及び数学の復習を行う。中間にテスト及び期末試験を実施し、理解度を把握し、フォローアップする。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基本5文型で書かれた短文の和訳ができる	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
	○	○				政治経済の重要用語について意味を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	英語:短文和訳(1.前置詞句) 社会:日本地理(1-3)					
	2	英語:短文和訳(2. To不定詞) 社会:世界地理(1-3)					
	3	英語:短文和訳(3. Ing形 4. 過去分詞) 社会:日本史(1-3)					
	4	英語:短文和訳(5. 第5文型) 社会:世界史(1-3)					
	5	英語:短文和訳(6. Itを用いた文) 社会:政治経済(1-3)					
	6	英語:短文和訳(7. 関係詞) 社会:政治経済(4-5)					
	7	英語:短文和訳(1-7復習) 社会:基礎知識(現代社会・宗教・芸術、政治経済(復習プリント))				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(社会:政治・経済)	
	8	授業内評価テスト(英語(短文和訳)及び社会(政治経済))				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)	
	9	評価テストのフォローアップ 英語:1. 基本単語、2. 時事英語 国語・数学の復習					
	10	英語:3. 熟語、4. 発音、5. 会話表現 国語・数学の復習					
	11	英語:6. 文法、7. 英文和訳、8. 和文英訳 国語・数学の復習					
	12	英語:長文読解 国語・数学の復習					
	13	模擬問題(text):一般常識、SPI言語分野、SPI非言語分野					
	14	授業内評価テスト(SPI模擬テスト ASOドリル)				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)	
15	総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で授業内評価テストを2回実施する (3)受講状況を評価する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	キャリアデザイン I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江利 かおり・川原 弓佳		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科 1年						
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界の職種について説明ができる	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる	
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎			IT業界について調査する(30分)		
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界			IT分野の業種について調査する(30分)		
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは			社会人基礎力について調査する(30分)		
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う			就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する(30分)		
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う			5年後、10年後の自分の姿を予想する(30分)		
	8	履歴書作成① 自己PR			自己PRを完成させる(1時間)		
	9	履歴書作成② 業界志望理由			業界志望理由を完成させる(1時間)		
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項			履歴書を完成させる(1時間)		
	11	面接練習① 入退室の所作					
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと					
15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	(1)履歴書を作成状況进行评估する (2)面接状況(動作、受け答え)进行评估する (3)業界セミナー、就活セミナーのレポート提出状況进行评估する (4)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%
	レポート提出		○		◎		20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	ビジネスソフトウェア演習B							
科目名(英)								
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	河野明子・西原友紀			
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	Excelを使用して、関数やマクロを含むビジネス書類作成やデータ分析をする。PowerPointを使って、Wordとの連携操作と訴求力のある資料の作成を行うことができる							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○	○			Excelを使って関数やマクロを使用してビジネス書類の新規作成、データ分析ができる		
		○	○			PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる		
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019 (FOM出版)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	Excelテスト解説/Excelデータ分析				宿題・レポート提出(1)		
	2	Excel関数				宿題・レポート提出(2)		
	3	Excelマクロ作成				宿題・レポート提出(3)		
	4	請求書作成				宿題・レポート提出(4)		
	5	Excel総合復習				宿題・レポート提出(5)		
	6	第10章PowerPoint さあ、始めよう/第11章PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう/第11章PowerPoint 練習問題				宿題・レポート提出(6)		
	7	第11章PowerPoint 練習問題解説/第12章PowerPoint スライドショーを実行しよう/第13章アプリ間でデータを共有しよう Step3				宿題・レポート提出(7)		
	8	第11-12章PowerPoint 練習問題/総合問題7.8.10				小テスト		
	9	PowerPointテスト/PowerPoint スライドマスターを設定しよう				授業内評価テスト(実技試験)は30分間です		
	10	プレゼン資料作成				宿題・レポート提出(8)		
	11	オリジナルプレゼンを作成しよう1				宿題・レポート提出(9)		
	12	PowerPointIテスト解説/オリジナルプレゼンを作成しよう2				宿題・レポート提出(10)		
	13							
	14							
15								
評価方法	(1)授業内評価テスト(実技)を1回実施する (2)小テストを1回実施する (3)宿題を10回実施する (3)受講状況の評価を以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
		授業内評価テスト(実技)		○	◎			20%
		小テスト		○	◎	○		20%
		宿題・レポート		○	◎	○		40%
		受講状況				◎		20%
履修上の注意	宿題・確認テストにおいて期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または追加宿題を設ける場合がある。再試験は実施しない。							

科目名	コンピューターオペレーション演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	奥野 広成		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通してLinuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる	
		○				Linuxの基本コマンド操作、viエディタによるファイル編集を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	イラストでそこそこわかるLinux(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	教科書第1章・学習を始める前に サーバーの必要性の理解、サーバー機能例の理解					
	2	Linuxサーバ構築作業 教科書第2章・Linuxにさわってみよう				課題・レポート1 Linuxサーバ構築 提出	
	3	教科書第3章・ファイルとディレクトリ操作の基本1					
	4	教科書第3章・ファイルとディレクトリ操作の基本2				授業内容に係る授業内評価テストを実施するので、 復習しておくこと(1時間)	
	5	授業内確認テスト1 Webサーバ構築(Apache) 課題演習				課題レポート2 Webサーバ構築 提出	
	6	教科書第4章・はじめてのエディター					
	7	教科書第5章・ユーザーの役割とグループのきほん1					
	8	教科書第5章・ユーザーの役割とグループのきほん2					
	9	教科書第6章・7章 シェルの便利な機能を使おう・便利な機能				授業内容に係る授業内評価テストを実施するので、 復習しておくこと(1時間)	
	10	授業内確認テスト2 教科書11章・ネットワークのきほん					
	11	暗号技術を使った接続1					
	12	暗号技術を使った接続2 (Linux Essentialsの解説)				課題レポート3 Webサーバ構築 提出	
評価方法	(1)授業内評価テストを2回実施する (2)授業中に出題した課題の提出を求める (3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				40%
	課題・レポート	◎	◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	基礎数学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	浜地 啓		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科1年、情報システム専攻科1年、情報システム科1年						
授業概要	ITエンジニアには数学力の基礎が必要とされる。また専門科目を理解するために数学の様々な分野の基礎の習得は欠かせない。様々な数学分野の基礎を学ぶ。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					対象分野の数学用語を説明できる	
	○					対象分野の練習問題を解くことができる	
テキスト・教材 参考図書	大学新入生のためのリメディアル数学(第2版)(森北出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	数値解析① 数と文字式の計算(1)					
	2	方程式① 一次方程式(1)					
	3	数値解析② 数と文字式の計算(2)					
	4	方程式② 一次方程式(2)					
	5	数値解析③ 一次関数、二次関数のグラフ					
	6	代数幾何① 平面ベクトル					
	7	数値解析④ 三角関数				ここまでの講義内容を復習すること	
	8	授業内評価テスト1、復習					
	9	代数幾何② 空間ベクトル					
	10	数値解析⑤ 指数関数、対数関数					
	11	代数幾何③ 行列(1)					
	12	数値解析⑥ 微分(1)					
	13	代数幾何④ 行列(2)					
	14	数値解析⑦ 微分(2) 確率統計① 確率					
15	授業内評価テスト2、復習				ここまでの講義内容を復習すること		
評価方法	(1)授業の中で授業内評価テストを実施する。(2)課題レポートの提出状況 (3)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト		○				30%
	課題・レポート		○				50%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						